

2023年度 活動レポート

2023年4月1日～2024年3月31日



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

ごあいさつ

日頃より日本ユネスコ協会連盟の活動に温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆さまのお力添えにより実施いたしました2023年度の公益活動についてご報告させていただきます。

2023年度は、国内の新事業「U-Smileプログラム」を本格的に開始し、相対的貧困やさまざまな理由により困難な状況に置かれた子どもたちを対象とした包括的教育支援に取り組みました。複数の地域で行政、企業、NPOなどと官民一体となって連携し、学習支援、体験支援などを子どもたちに届けました。

また、「災害子ども教育支援」では、令和6年能登半島地震で被災した子どもたちに、進学をあきらめることがないよう、奨学金などの支援実施に向けて広く募金を呼びかけ全国各地から温かいご協力をいただきました。

一方で、世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻は収束の兆しが見えず、中東においてもイスラエルとパレスチナの休戦が実現せず、各地で平和が脅かされています。このような状況だからこそ、いま一度UNESCO憲章の理念に立ち返り、平和で持続可能な社会を実現するために、教育や文化の重要性を訴え続けてまいります。

改めて、皆さまのご支援に感謝申し上げますとともに、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

2024年7月
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

会長 佐藤美樹



目次

■ 日本ユネスコ協会連盟の活動	02	■ 国内 > 地域遺産の保護保全・啓発	
■ 国内 > 子ども教育支援		未来遺産運動	17
災害子ども教育支援	03	■ 海外 > 世界遺産の保護・保全支援	
東日本大震災子ども支援・ユネスコ協会就学支援奨学金	05	世界遺産活動	19
東日本大震災子ども支援・MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金	06	■ 多文化共生促進 > 国際理解・交流プログラム	
アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム	07	三菱アジア子ども絵日記フェスタ／高校生カンボジアスタディツアー	20
ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト	08	■ 団体概要	21
U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム	09	■ 全国ユネスコ協会・クラブ	22
■ 海外 > 途上国における教育支援		■ 維持会員／賛助団体会員／サポーター	23
世界寺子屋運動		■ 企業・団体との連携	24
カンボジア	11	■ 寄付方法のご案内	25
ネパール	12	■ 会計報告	26
ミャンマー／バングラデシュ／アフガニスタン	13		
書きぞんじハガキ・キャンペーン2023／寺子屋リーフレット制作プロジェクト	14		
■ 海外 > 途上国への医療・食糧支援			
一杯のスプーン			
ネパール／アフガニスタン	15		
ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金／トルコ・シリア大地震への緊急支援	16		

日本ユネスコ協会連盟の活動

日本ユネスコ協会連盟は、民間のユネスコ団体(NGO)として、1948年に創設されました。UNESCO憲章の理念に基づき、教育や文化の普及・振興を通じたさまざまな活動を国内外で実施しています。連盟を構成する各地ユネスコ協会・クラブや、企業・団体・個人の皆さまとともに、平和で持続可能な社会づくりを目指して70年以上にわたり活動を続けています。

日本ユネスコ協会連盟が目指すこと

ビジョン 指針と展望

Peace for Tomorrow
広げよう平和の心

ミッション 使命と責務

Mission 1 平和な世界の構築
Mission 2 持続可能な社会の推進

SDGs(持続可能な開発目標)への取り組み

ゴール4「質の高い教育をみんなに」を重点に活動しています。

貧困や飢餓、教育、ジェンダー、保健、環境、気候変動などの世界的な課題に対し、2030年までに達成すべき17の目標がSDGsです。私たちは、ゴール4「質の高い教育をみんなに」が17すべてのゴール達成の根幹を成すとの考えのもと、SDGsの達成に貢献します。



子ども教育支援

災害子ども教育支援

被災地の教育現場の復旧・復興や、子どもたちの就学・学習環境の整備・復興を支援する。



U-Smileプログラム

地域協働型の包括的な教育支援を通して、相対的貧困やさまざまな理由で困難な状況に置かれた子どもたちを支援する。



途上国における教育支援

世界寺子屋運動

教育を必要とする人びとに学びの機会を提供し、貧困のサイクルを断ち切る。



地域遺産の保護保全・啓発

未来遺産運動

地域の有形・無形の文化や自然を100年後の子どもたちにつなぎ、伝える。



世界遺産の保護・保全支援

世界遺産活動

人材育成や修復、世界遺産教育を通じて、途上国の世界遺産の保護・保全を行う。



多文化共生促進

国際理解・交流プログラム

国籍や民族などの異なる文化を認め合い、学び合い、共生に向けた相互理解を促進する。



災害子ども教育支援

いつか起こる災害から、
子どもたちの未来を守るために

事業目的 被災地の教育現場の復旧・復興や、
子どもたちの就学・学習環境の整備・復興を支援する。

2023年度は、「令和5年5-7月の豪雨および暴風雨」で被害のあった秋田県の高校や保育園などに対して学校支援を行いました。また、「令和6年能登半島地震」では、奨学金支援などの実施に向けて広く募金を呼びかけ、多くの方々からご寄付が寄せられました。

事業概要

「東日本大震災子ども支援」の後継事業として始まった本事業は、災害の規模や被害レベルに応じ、以下3つの支援を行います。

学校支援	奨学金支援	ユース・ボランティア支援
<p>■ 対象 学校等（幼稚園、小学校、中学校、高等学校ほか、教育や子どもに関連する機関・施設）</p>	<p>■ 対象 ① 災害で就学のための経済的な支援が必要になった子ども ② 災害で親を亡くした子ども（①②ともに中学3年生）</p>	<p>■ 対象 被災地の復旧・復興のためのボランティア活動に取り組むユース・グループ</p>
<p>■ 内容 学校等の復旧・復興に必要な物資などを調達するための支援</p>	<p>■ 内容 高校進学を支えるための奨学金支援 月額2万円を3年間（給付型）</p>	<p>■ 内容 ボランティア活動費の補助</p>
<p>■ 対象災害 激甚災害に指定された災害</p>	<p>■ 対象災害 激甚災害に指定され、かつ子どもたちへの就学支援が必要とされる大規模な災害</p>	<p>■ 対象災害 災害ボランティアセンターなどからボランティア派遣要請が出された災害</p>

2023年度事業成果

対象災害名
令和5年5-7月の豪雨
および暴風雨

支援地域
秋田県秋田市

学校支援
1校・2園

累計成果 2021~2023年度

対象災害 3件

学校支援 8校

浸水被害のあった学校などに支援を実施

「令和5年5-7月の豪雨および暴風雨」により、秋田県の複数の地点で浸水被害があり、学校などでは雨水や泥水が校舎内などに流れ込み、備品が水没、全壊するなど被害が発生しました。支援要請のあった秋田市の1校・2園に、暖房器具（石油ストーブ）、絵本棚、配膳台、園庭の土などを購入するための支援を行いました。



支援によって浸水した園庭の土を入れ替えることができた。(秋田市・かわぐち幼稚園)

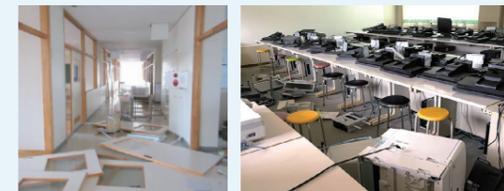
令和6年能登半島地震

2024年1月1日に発生した能登半島地震の発生を受け、募金の呼びかけを行いました。全国各地から多くの皆さまにご寄付をお寄せいただきました。ご協力に心からお礼申し上げます。
発災当日から6月末までに災害子ども教育支援に寄せられた寄付金は、全額「令和6年能登半島地震」支援に役立てさせていただきます。



石川県立能登高等学校(柳田校舎)。寮前面の敷地が崩落し、地滑りが起きている

被災地の教育関連概況



石川県立穴水高等学校の校舎内。扉は外れ、廊下に倒れ込んでいる
石川県立輪島高等学校のPC室。すべてのPCが倒れ、一部モニターや印刷機は机から落ちてしまっている

子どもたちの教育環境への影響

石川県内では公立学校344校のうち、85%の292校が被災。校舎の被災だけでなく、避難所になった学校もあり、他校を間借りしたり、入学式や卒業式を別の場所で実施したりした学校もありました。また、高校受験を控えた中学生が一時的に他の地域に集団避難したこともあり。さらには、児童・生徒の数が2~4割減少している(他所へ移っている)地域もあるとのこと。被災で経済的なダメージを受けた家庭もあり、子どもの就学のための支援も必要とされています。

石川県珠洲市の教育現場から

山下 裕子様

珠洲市教育委員会事務局 主幹兼係長

令和6年能登半島地震により、珠洲市の子どもたちの生活環境は激変しました。
珠洲市教育委員会は、スクールカウンセラーの派遣をはじめとする国や県の支援や学校の取組を活用し、早期から心のケアに努めてきました。子どもたちが強いストレスを抱えてしまうことが心配されましたが、支援体制を築いてきた結果、落ち着いて学習活動等に取り組むことができています。
いまなお(2024年5月末)、珠洲市全11校中10校の校庭に応急仮設住宅があり(もしくは今後建設予定)、体育や部活動等の活動が制限されています。水やガスが使用できない学校もあります。珠洲市の学校が震災前の日常を取り戻すには支援も時間も必要です。
また、被災による保護者の休業や失業は、子どもたちの教育環境へも大きな影響を及ぼしています。保護者より「休業を余儀なくされ収入が減り家計が苦しくなった」「事業再開の目途が立たず収入が全くなかった」「今後の生活に不安がある」といった声が多く寄せられています。
子どもたちの教育環境が維持できるよう、「災害子ども教育支援事業」を通じた被災家庭・学校への支援を望んでいます。

道下 忠成先生

珠洲市立緑丘中学校 教諭

発災後、全国からたくさんのご支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私は珠洲市で生まれ育ちました。この町を歩くことや仲間とバスケットボールをすること、そして何より、日々成長する子どもたちとともに過ごす時間が大好きでした。いまは以前のようにはいきません。町はその姿を大きく変えてしまいました。
本校の関係者の多くが発災前とは違う生活を送っています。生徒の約3割が転出し、避難所や仮設住宅から通う生徒、教職員もいます。本校は避難所としても運用を続けています。校舎は一部破損していますが、適宜処置をして安全に注意しながら使用しています。安全に学校生活を送れるための、学校への支援が必要ではないかと思っています。
それでも、地域の人びと、子どもたちは珠洲のためにそれぞれの場所で前を向いて取り組んでいます。災害によって環境は大きく変わってしまいましたが、珠洲が私にとって大切なふるさとであることに違いはありません。たくましく力強い姿を見せる仲間たちとともに、ふるさとを次の世代につなげていきたいです。

支援計画

一人でも多くの子どもたちに奨学金を

当連盟では、緊急対応期後の復旧・復興期における支援として、子どもたちへの奨学金支援を中心に、その他、被災した学校への物資支援や被災地で活動するユース・ボランティアへの支援などを行います。奨学金(返済不要)は、子どもたちが安心して高校生活を送ることができるよう、一人当たり月額2万円を3年間にわたって支援します。

東日本大震災子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金 高校進学支援で安心して学べる環境を

事業目的 給付型奨学金で高校進学に伴う家計負担への不安を軽減し、子どもたちの希望を支える。

東日本大震災から13年。2023年度は、奨学生の新規採用の最終年となりました。2021年度と2022年度に採用した奨学生と合わせて503人に奨学金の給付を行いました。奨学金は、現在もなお支援を必要とする家庭の子どもたちの高校進学にかかる費用などに活用されました。

事業概要

- **対象** 東日本大震災における地震・津波による住居の流失や損壊、あるいは原発事故による避難などで経済状況が悪化した家庭の、高校進学を希望する子どもたち
- **内容** 中学3年～高校2年修了までの3年間にわたり、月額2万円の返済不要の奨学金を支援。

2023年度事業成果

奨学生人数 **503**人

支援地域 岩手県・宮城県・福島県の中で被害の大きかった23市町村

奨学金給付額 **1億284**万円

累計成果 2011～2023年度

奨学生人数 **3977**人

支援地域 岩手県・宮城県・福島県の中で被害の大きかった市町村

奨学金給付額 **26億7868**万円

最後の新規奨学生128名を採用

最後の新規奨学生として128名の中学3年生を採用しました。この新規奨学生が高校2年生を終える2025年度末をもって、本事業による支援も終了となります。

ご支援ありがとうございます。私を4月から2年生として、将来に向けての進路を考え、日々生活しています。まだ具体的に決まらなかったり不安ですが、夢に向けて少しでも近づけるよう頑張りたいと思います。

東日本大震災から13年が経過し、私や住んでいる女川町も壊滅的な被害に耐えましたが、人々の協力のおかげで新しい女川町が生まれました。最近おちおち地震があれど心配ありません。自然災害はどのくらいも耐えられると思いますが、その後の復興に役立っている支援を私にしたいと思っています。

奨学生からの手紙

保護者からの手紙

奨学生からの手紙

13年前の東日本大震災で被災し、その後の生活で、今も不安定な中、就学支援奨学金により、子供も安心して高校生活を過ごす事ができています。本当にありがとうございます。

また、羊頭に起つては、巨能登米島地震で被災された方々や、全国の支援を必要とする方々に今後も、ユネスコ協会様の支援が頼み事を願うから、すべての募金者の方々に感謝いたします。御礼です。



奨学生からの手紙

東日本大震災子ども支援 MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金 被災地の教育復興と子どもたちの教育機会を守る

事業目的 震災で親を亡くした子どもたちの長期的な生活と学びを支援する。

2023年度は135人に奨学金を給付しました。そのうち、2012年度に小学校へ入学した50人が高校を卒業し、奨学金の受給を終えました。震災で保護者を亡くした子どもたちが安心して学び、成長するための教育環境を長期的に支えています。

事業概要

- **対象** 東日本大震災で親を亡くした小学生・中学生・高校生 (2014年小学校入学児童まで)
- **内容** 小学校から高校卒業までの在学期間中、月額2万円の返済不要の奨学金を支援。このほか、本基金によりこれまでに国際交流プログラムや学校の花壇の再生プログラムなどを実施。協力:三菱UFJフィナンシャル・グループ

2023年度事業成果

奨学生人数 **135**人

支援地域 岩手県、宮城県、福島県、秋田県、茨城県、神奈川県、島根県

奨学金給付額 **3210**万円

累計成果 2011～2023年度

奨学生人数 **1486**人

支援地域 岩手県、宮城県、福島県、秋田県、茨城県、東京都、神奈川県、島根県

奨学金給付額 **23億902**万円

大学に進学して養護教諭を目指したい

奨学生135人(高校1～3年生)を支援しました。本事業は、2014年度に小学校に入学した子どもたちが高校卒業を迎える2025年度末まで継続します。この春、進学、進級、卒業した奨学生や保護者から多くのお手紙をいただきました。高校の卒業式の晴れやかな写真を送ってくれた奨学生は、「県内の大学に進学し、将来は養護教諭になりたいので、大学での勉強を頑張りたいです」と今後の抱負を寄せてくれました。

夢に向かって大学に進学する奨学生



いつも支援していただきありがとうございます。高校に入学し1年が経ち、寮生活にも慣れ、友達、先輩にも恵まれて、充実した高校生活を送っています。2年生からは、進路も向を合いつつ自分の夢、目標を達成できるか、勉強、部活を頑張りたいと思います。(1年生大会の時の写真です)



奨学生からの手紙

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

災害時に命と地域を守れる子どもを育てる

事業目的 学校の減災教育の推進・改善を支援し、
地域の中心となる子どもたちを育てる。

2023年度は30校に活動助成を行いました。9月に宮城県気仙沼市の学校・震災遺構を訪問し教員研修会を実施。2月には東京で助成校が実践成果を共有する活動報告会と、被災地の事例や有識者の講義などから知見を深めるフォーラム（一般公開・オンラインでも配信）を実施しました。協働枠として2つのユネスコ協会も参加しました。

事業概要

- 対象
全国の小学校、中学校、高校（義務教育学校、特別支援学校等含む）
- 内容
①活動費の助成（10万円/校） ②教員研修会（東日本大震災の被災地訪問）
③活動報告会および減災教育フォーラム（東京都・オンライン）
※減災教育フォーラムは一般公開

協力：アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学ESD・SDGsセンター／
後援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会／プログラムコーディネーター・
講師：及川幸彦氏（奈良教育大学）／ファンリテーター・講師：上田和孝氏
（新潟大学）／研修共催：気仙沼市教育委員会／研修協力：気仙沼市立
階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校

地域に発信し防災・減災意識を高める



地域の災害危険箇所を調査した

未災地域の松山市立旭中学校（愛媛県）では、災害時に地域での逃げ遅れゼロを目指し、助成金を活用して災害危険箇所の調査や地域の自主防災訓練を行いました。生徒は主体的に活動し、報告会を通じて、防災・減災に関する知識と意識を高める取り組みとなりました。

地域ユネスコ協会と協働した取り組み



協働発表する大牟田地方ユネスコ協会ユースと三池工業高校の生徒

三池工業高校（福岡県）は大牟田地方ユネスコ協会と協働し、防災・減災に取り組みました。中学での出前授業、大牟田地方ユネスコ協会主催イベントでのワークショップやユースとの協働発表、文化祭では行政と連携した避難所や煙体験など、地域へ積極的に発信しています。学校と地域協会の連携が地域の防災・減災の強化につながっています。

2023年度事業成果

活動助成	30校 (21都道府県)
教員研修会参加者	30校 30人の教員およびユネスコ協会2人
活動報告会参加者	29校 29人の教員およびユネスコ協会2人
減災教育フォーラム参加者	189校・関係団体など 213人
活動に参加した児童・生徒	30校 5529人
活動に携わった教員・保護者・地域住民など	30校 4378人

累計成果 2014~2023年度

活動助成	246校
活動に参加した児童・生徒・教員・保護者・地域住民など	9万2584人

ユネスコスクール SDGsアシストプロジェクト

教育の未来を見据えてSDGsの課題に取り組む

事業目的 UNESCOの「教育の未来報告書」を踏まえて、
学校で行うSDGsの各課題への取り組みを推進する。

2023年度は83校に活動助成を行いました。各助成校は、SDGs達成に向けた多様な取り組みを行い、フィールドワークや発表会を通して活動成果を地域に還元しました。さらに、ユネスコスクール全国大会や日本ユネスコ国内委員会の報告会などの全国的な場や、国連機関のUNESCOや文部科学省などが主催する「ESD-Net2030グローバル会合」での実践発表など、国際的な舞台に活躍の場を広げた学校も複数ありました。

事業概要

- 対象
ユネスコスクールおよびユネスコスクール・キャンディデイト
※ユネスコスクール・キャンディデイトとは、チャレンジ期間を終了し国内審査を終え、UNESCOに申請中（または行う）段階にある学校。
- 内容
取り組みに必要な教材費や活動費を助成（10万円/校 ※30万円/校のケースもある）、活動発表会を実施。
協力：株式会社三菱UFJ銀行／後援：日本ユネスコ国内委員会

2023年度事業成果

助成校 **83校** 参加した児童・生徒 約**1万4000人** 助成校 **1293校**

累計成果 2009~2023年度

地域と育む福祉の心

「福祉のまち」として名高市にある市立中央小学校（福岡県）は、車いす体験やアイマスク体験を通じて他者の立場を理解する取り組みを実施しました。この活動により、児童は通学路の危険箇所や改善点を見つけたほか、認知症の方の見守り訓練にも自主的に参加するようになり、地域の福祉に貢献しています。



ぬかるんだ道での車いす体験

SDGsを通して学んだ社会課題の解決

仙台第三高等学校（宮城県）では、近隣の大堤沼を活用して環境・防災学習を行い、小・中学校に出前授業を実施しました。また、台湾や韓国の高校、ハワイ大学との交流や模擬国連への参加を通じ、SDGsを国際的な視点から学びました。これらの取り組みが評価され、2023年度ESD大賞でユネスコスクール最優秀賞を受賞しました。



模擬国連で積極的に意見交換する生徒たち

U-Smile

～みんなでつなぐ子ども応援プログラム

子どもたちが夢と希望を抱ける社会へ

事業目的 地域協働型の包括的な教育支援を通して、相対的貧困やさまざまな理由で困難な状況に置かれた子どもたちを支援する。

前年のテストランを経て、2023年度は本格的に事業を開始しました。3つの地域のユネスコ協会・クラブへの助成を通して、各地域で、さまざまな理由により困難な状況に置かれた子どもたちのために学習の機会や体験活動を提供しました。また、山口県宇部市と包括連携協定を締結し、子どもの貧困支援に関する啓発活動や子どもたちへの体験活動を行いました。

事業概要

- 対象** 日本国内で、経済的に困難な家庭の子どもたち、家庭内に居場所がない子どもたち、家庭環境により体験機会が限られる子どもたち、学校外で学びの場が得られない子どもたち
- 内容** 日本各地で、自治体や教育機関、地元企業、地元NPOなどと連携し、学習支援、食事支援、居場所支援、体験支援など、子どもたちの社会を生き抜く力を育む包括的教育支援を実施。

2023年度事業成果

助成した活動数 3 件	直接支援 2 件 (山口県宇部市)
助成活動を通じて支援した人数	直接支援を通じて支援した人数
学習支援に参加した子ども 109 名	体験に参加した子ども 19 名
体験活動に参加した子ども・地域の大人 210 名	シンポジウムに参加した大人 (保護者含む) 67 名

各地ユネスコ協会・クラブの活動に助成



無料学習支援事業の様子(箕面ユネスコ協会)
群馬県前橋市で食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」と無料自習室「STUDY CAMP」を実施する特定非営利活動法人維新隊ユネスコクラブ(東京都)、高知県で同様の事業を開始した高知ユネスコ協会(p10参照)、無料学習支援事業や「本物に触れる体験」を提供する箕面ユネスコ協会(大阪府)に助成しました。

宇部市と連携協定



2023年9月28日、山口県宇部市と「こどもの未来共創に向けた連携と協力に関する協定」を締結し、官民連携による地域ワーキングチームを組成。地域における支援体制構築を推進しました。11月には「こども未来共創フォーラム」宇部こどもの未来共創ワーキング会合

を宇部市で開催したほか、困難な状況にある同市の子どもたちを対象に東京体験旅行を実施しました。
こども未来共創ワーキングチームのメンバー：学生団体Ube col(宇部カレ)、宇部市社会福祉協議会、宇部商工会議所、株式会社宇部日報社、宇部ユネスコ協会、一般社団法人キッズラップ、市民活動センター「青空」、日本航空株式会社、株式会社ファーストリテイリング、株式会社山口銀行宇部支店、国立大学法人山口大学、UBE株式会社



事業背景

厚生労働省による2021年の調査では、日本の子どもの9人に1人が相対的貧困状況にあり、ひとり親世帯では半数近く(OECD36ヵ国において悪い方から2番目:2018年データ)が困窮していることがわかりました。経済的な困窮は、教育格差、体験格差を生み、将来の所得格差につながっていくことも明らかになりつつあります。また、子どもの貧困の放置は大きな社会的損失となることが公益財団法人日本財団の調査で指摘されています。

助成活動インタビュー

食事つき無料塾「高知はりまや教室」で目指すこと 高知ユネスコ協会 和田栄治会長

塾にいる間は心穏やかで

高知市内に食事つき無料学習塾「高知はりまや教室」を開塾したのは2023年9月です。維新隊ユネスコクラブ(東京都)が実践する「ステップアップ塾」のスキームを利用しました。同時に、高知県の教育問題を包括的に見られるようにと高知ユネスコ協会を設立しました。

はりまや教室では週に1回、高校生や大学生、社会人がボランティア講師となり、子どもたちの勉強を見ています。始めてまだ1年も経ちませんが、年度末のアンケートでは7割弱の子どもが「成績が上がった」と答えました。そういう意味で、自己肯定感の向上につながっていると思います。

また、勉強が終わると講師も子どもと一緒に食事をします。はりまや教室はさまざまな家庭環境やバックグラウンドを持つ子どもたちが利用しており、ひとり親家庭も少なくありません。皆でニコニコしながらご飯を食べる、そういう機会を持ってない子どもは結構いるように思います。午後4時に勉強が始まり、食事が終わるのは6時半。少なくともその間は、何の心のざわつきもなしに穏やかに過ごしてほしい。あそこにいれば嫌なことが忘れられるとか、優しい講師のお兄ちゃんやお姉ちゃんがいるとか、ご飯が食べられるとか、気持ちが落ち着く場になればそれだけでいいと思います。食事の用意もボランティアが担当し、食材は近隣の住民や農家さんから提供していただくなど、地域の人びとに支えられています。



ボランティア講師がマンツーマンで指導。右側に立っているのが和田会長

自分の頭で考えられる人間に

私自身、教員を続けてきて思うのは、教育が人格を形成すること。自分の頭で考えて、自分の将来を切り拓くことができる人間になってほしい。教育はすべて、そこにつながると思っています。そういう人間力がつければ、必要なことに時間を割いて自分から学習する



講師も含め毎回30人以上が賑やかに食卓を囲む

人間になります。人間力と学力は両輪なんです。はりまや教室は、講師のいない日も軽食を用意し、自習室として利用してもらっています。また、今後は「親子で学ぶ金融教室」などの体験イベントや、学生ボランティアのための勉強会など活動を広げていきたいと思います。U-Smileプログラムに支援してくださった寄付者の方々には、私宛のメールでもいいので、子どもたちへのメッセージをいただくと嬉しいですね。「たくさんの人に支えられている」ことを目に見える形で伝えたいです。

和田栄治氏 教員歴25年。現在は土佐塾中学・高等学校教諭を務める傍ら、高知市内の教育問題に対して包括的なアプローチを続けている。

世界寺子屋運動

すべての人に教育を!

事業目的 教育を必要とする人びとに学びの機会を提供し、貧困のサイクルを断ち切る。

2023年度は、カンボジアとネパールで貧困層の成人や子どもたちに基礎教育や職業訓練、意識啓発の機会を提供しました。一方、ミャンマーとアフガニスタンでは政情不安により2021年以降事業を中断していましたが、ミャンマー事業では国外に逃れたミャンマー人青年らに識字教育を実施し、アフガニスタン事業では貧困地域で職業訓練を実施するための準備を行いました。

事業概要

■ 対象

紛争や経済的事情で学校に通えない子どもたちや、教育を受けられないまま大人になった人びと

■ 内容

寺子屋というノンフォーマル教育施設を通じ、学びの土台となる識字教育や、小・中学校教育の学びなおしの機会を提供するほか、地域のニーズに応じて職業訓練などを実施。

現地事務所 : カンボジア、アフガニスタン
 カウンターパート: ネパール・ノンフォーマル教育ナショナルリソースセンター(NRC-NFE)、UNESCOダッカ事務所

累計成果 全体・1989~2023年度

参加国・地域
44カ国・**1**地域

参加者数(支援者数)
135万人

カンボジア

2023年度事業成果

識字クラス	幼稚園クラス	小学校クラス	中学校クラス	寺子屋建設
369 人	110 人	283 人	44 人	22 軒
進学支援	小口融資(新規)	米銀行(貸付)	寺子屋建設	他、各種プログラム
114 人	240 世帯	133 トン相当	1 軒	

高校進学資格が得られる中学校クラス「LSEP」を開始

これまで、寺子屋で小学校教育を学びなおした子どもが高校に進学するには、公立中学校に3年間通う必要がありました。しかし、政府に



中学校クラスで学ぶ子どもたち
 LSEP: Lower Secondary Equivalency Program (中学校クラス)

より導入されたプログラム「LSEP」では、寺子屋で2年間学ぶことで中学校修了資格が得られます。子どもたちの選択肢が増えることは意義深く、スニョール寺子屋で初めて実施しました。

22軒目の寺子屋が完成!

2024年2月、シェムリアップ州スパイラー郡スパイラーコミュニティに寺子屋ができました。州内で最も貧困率が高いスパイラー郡では、成人の6人に1人が読み書きできず、子どもの4人に1人が学校に行っていません。今後、寺子屋で小学校クラス、識字クラス、職業訓練などを行い、可能な限り多くの人に学習の機会を届けます。



完成したスパイラー寺子屋

ネパール

2023年度事業成果

幼稚園クラス	小学校クラス	家庭内識字クラス	識字と職業訓練クラス	研修・啓発活動
201 人	681 人	200 人	100 人	398 人

累計成果 2002~2023年度

寺子屋建設
21軒
 他、各種プログラム

新しいカリキュラムの小学校クラスを実施

3年間の小学校クラスが2年間に短縮され、教科書も新しくなりました。ネパール語、英語、算数および総合科目(理科、社会、保健、防災、交通安全など)を週6日学んでいます。地域の建物で行われる通常のクラスだけでなく、近くの田んぼや畑で農業について学習するほか、女子生徒を対象に母子保健や女性の権利に関するクラスも実施しました。



母親と子どもが識字教員と地域の問題や読み書きを学ぶ

小学校クラスの算数の授業でかけ算の勉強



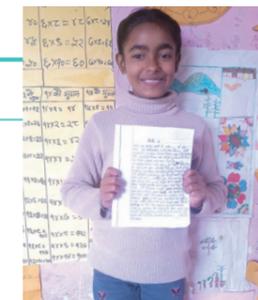
親子で識字と伝統文化を学ぶクラス

学校に通う子ども(高校生)が母親に基礎的なネパール語や携帯電話の使い方を教え、母親が子どもに地域のお祭りに関する知識や伝統料理、手工芸品の作り方を伝えるクラスを実施。家庭内で識字や伝統文化を学ぶセッションのほか、親子で識字教員と地域の問題を話し合うセッションも行われました。

学習者の声

シヴァ・クマリ・ライダスさん 13歳・小学校クラス2年生

12人家族でお父さんは日雇いの仕事をしています。同年代の友だちが学校に通うのがうらやましかったですが、私は兄弟やヤギの世話をしなければなりません。寺子屋が学校に行っていない子どものクラスを始めたとき、お母さんが登録してくれました。ネパール語や英語を学び、英語の時刻もわかるようになりました。将来は学校の先生になりたいです。



ミャンマー バングラデシュ



事業概要

- 背景**
 2017年、ミャンマー西部ラカイン州で国軍が大規模軍事介入を行い、70万人以上のロヒンギャの人びとがバングラデシュに逃れました。2021年のクーデターの影響で「ミャンマー寺子屋プロジェクト」の実施が困難となったため、2023年度は、バングラデシュでUNESCOダッカ事務所が行うミャンマー難民支援への協力を行っています。
- 対象**
 ミャンマーからバングラデシュに逃れてきた難民(青年)
- 内容**
 プロジェクトでは、バングラデシュ南東部コックスバザールで、ミャンマー難民(ロヒンギャ)の青年を対象に識字教育と技術訓練を実施。さらに、難民キャンプ周辺(ホストコミュニティ)に住むバングラデシュの青年向けにも技術訓練を提供。



移動式床屋研修でヘアカットを学ぶ

2023年度事業成果

識字および職業訓練クラス **300人**
 難民キャンプ 250人
 ホストコミュニティ 50人

今後に生かせる識字と技術を
 バングラデシュ国内で、ミャンマー難民の青年を対象に識字(ビルマ語と英語)を教えるほか、移動式床屋や手工芸品づくり(刺しゅうクラスなど)、大作業などの技術訓練を実施。識字教員や技術訓練の講師は、スキルを持つミャンマー難民から採用することもあります。習得した識字能力や技術を、難民キャンプや今後ミャンマーに帰還した際に生かしていくことが期待されています。

アフガニスタン

情報収集と交渉の末、職業訓練の実施が決定
 2023年度当初は、教育省識字局と連携し、成人向け識字教育および職業訓練を実施する準備を進めていましたが、暫定政府がすべての教育事業に対するNGOの参画を一時的に停止する措置をとったため無期延期に。そのような状況の中、教育省が独自予算にて寺子屋で識字教育を実施する方針と聞き、当連盟は寺子屋を整備するため井戸の修繕を行いました。一方で、教育省以外との連携も模索するため、労働省や商工会議所などから情報収集を継続しました。結果的に、貧困層への職業訓練ニーズに応えたい労働省より協力要請があり、2024年3月に事業実施にかかる覚書を締結。2024年度中に、成人男性を対象とした職業訓練をカブール市内で実施する予定です。



寺子屋の井戸の修繕状況をモニタリングする当連盟アフガニスタン事務所職員ら

書きそんじハガキ・キャンペーン2023

身近なもので世界寺子屋運動に協力!

「みーっけ! タンス遺産」と気づいたら、世界の学びを救うチャンス!



総金額 約**4336**万円相当
 (2022年12月1日~2023年11月30日の期間)

件数 ユネスコ協会・クラブ **145**件
 団体・企業・個人 **1961**件
合計 2106件

全国からたくさんのハガキや切手が集まりました

書きそんじハガキや未使用切手、金券などの「タンス遺産」を募金に換える「書きそんじハガキ・キャンペーン」は、世界寺子屋運動の運営を支える大きな力となっています。2023年度キャンペーンでは、ユネスコ協会・クラブや企業・労働組合・学校など多くの個人や団体のご協力をいただき、2106件・約4336万円相当が集まりました。



集まったハガキや金券、切手を整理

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

1枚のリーフレットから、世界を変えたい

識字問題を通して、子どもたちが世界の現状を学び、気づき、行動する力を育む。

事業概要

- 対象** 小学校、中学校、高等学校
 - 内容** 識字問題や就学率をはじめとした教育(SDGsの目標4)に関する世界的課題を学んだ子どもたちが、「世界寺子屋運動」を支える「書きそんじハガキ・キャンペーン」のリーフレットを、デジタル機器を用いて制作。完成したリーフレットを活用して書きそんじハガキを集める活動を各校で実践。
- 共催：一般社団法人デジタル表現研究会(D-project)

2023年度事業成果

参加校 **22**校 **参加した児童・生徒** 約**1800**人

累計結果 2003~2023年度

参加校 **575**校

リーフレット制作で広がる識字問題への関心

参加した児童・生徒はリーフレット制作に加え、文化祭での展示や書きそんじハガキの回収にも積極的に取り組みました。彼らが制作したリーフレットは世界の識字問題や教育の大切さを伝え、多くの共感をえました。一般公開されたウェブ投票も盛り上がり、オンライン表彰式では参加者同士の交流が実現しました。



2023年度最優秀賞(日本ユネスコ協会連盟賞)を受賞した立教女学院高等学校 Yuiko I.さんの作品

一杯のスプーン

みんなの「スプーン一杯分」の支援で、
多くの人びとの健康状態を改善

事業目的 飢えや病気で苦しむ人びとのために、医療、保健および食糧支援を実施する。

2023年度は、ネパールでは、南部ルンビニで寺子屋が企画した眼科や産婦人科の巡回検診や母子保健に関する研修、生理ナプキン制作などの医療・保健活動を支援し、3210人が参加しました。また、アフガニスタンでは、経済状況が厳しさを増す中、貧しい人びとに医療を届けるクリニックへの支援を実施しました。

事業概要

- 対象**
 途上国で食糧不足に陥っている人や基礎的な医療を受けられない人びと
- 内容**
 ネパールでは寺子屋が実施する医療保健事業をサポート。アフガニスタンでは首都カブールの医療機関を通じて経済的に苦しい人びとへの医療や食糧支援を実施。カウンターパート：サハ医療センター（アフガニスタン）、ノンフォーマル教育ナショナルリソースセンター（NRC-NFE）（ネパール）

ネパール



2023年度事業成果

- 巡回検診（眼科・糖尿病等） **1393人**
- 母子保健研修 **868人**
- 産婦人科健診 **670人**
- 生理ナプキンづくり等 **279人**

医療が行き届かない地域で巡回検診等を実施

寺子屋が地域のニーズをもとに企画した医療・保健事業を支援。眼科検診では地元の眼科クリニックの協力で白内障検診を実施し、白内障と診断された20人には病院を紹介したほか、産婦人科検診では子宮頸がんの診察を行いました。母子保健研修では、女性たちが妊娠時に必要な栄養や母乳の重要性、予防接種などについて学びました。



寺子屋で行われた巡回眼科検診

10万人以上の医療と健康をサポート

2023年度も、貧困層が利用できる医療機関として重要な役割を担うサハ医療センターに対し、薬剤やX線フィルムなどの検査資材を支援しました。9人の子を持つシングルマザー、トアバイカイさんは、体調がすぐれず受診し、診察の結果、糖尿病などを患っていることが判明。これにより、適切な治療を開始することができました。



検査結果の説明を受けるトアバイカイさん（右）

アフガニスタン

2023年度事業成果

- 医療センターを受診した人 **10万5090人**
- 栄養失調児への支援 **1977人**

緊急支援

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金



事業概要

- 対象**
 ウクライナ（西部ザカルパッチャ州）の国内避難民およびルーマニアへの避難民
- 内容**
 ウクライナ西部のザカルパッチャ州とルーマニアにおける避難民（とくに女性や子ども、高齢者）への食糧や生活物資などの支援のほか、子どもたちの心理的なケアを目的とした絵画展や旅行などの支援。
 カウンターパート：アルムナス・ユネスコクラブ（ルーマニア）、シグヌス科学ユネスコ協会（ルーマニア）、ビーブルインニード・スロバキア（スロバキア）

2023年度事業成果

ウクライナおよびルーマニアで宿泊や食糧支援、生活物資、心理ケアなどを受けた人びと **約3万4300人**（2022年からの累計）

お礼の手紙

ルーマニアユネスコ協会クラブ連盟
ダニエラ・ポベスク会長
ロシアによる侵襲後、多くのウクライナの人びとがルーマニアに避難してきました。この問題に対応するため、日本ユネスコ協会連盟と私たちの団体が素晴らしい協力関係を築けたことに感謝します。ルーマニアに逃れてきた子どもたちとその母親たちにとって、実施した絵画イベントや小旅行などは嬉しいの機会になったと思います。もしかするとイベント中は自国の大変な状況を少しだけ忘れることができたかもしれませんし、父親や親戚に会えない寂しさも和らいだかもしれません。

子どもたちの心理的なケアを中心に支援



絵画ワークショップで思い思いに絵を描く（ルーマニア）

2023年度は、ウクライナ国内の戦闘地域から逃れてきた子どもたちのケアにあたる教員や心理士の研修を行い、ルーマニアではウクライナから避難してきた子どもたちへのメンタルケアのための絵画ワークショップや国内旅行を実施しました。また、母親向けにルーマニア語講座も実施し、異国での避難生活を和らげる支援を行いました。

トルコ・シリア大地震への緊急支援



2023年2月6日にトルコ、シリアで発生した未曾有の大地震に対し、人道的観点から、被災された両国の方々へ手を差し伸べるべく緊急支援を広く呼びかけました。お寄せいただいた1460万5284円の募金は、緊急支援の活動資金とし全額を特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）に送金しました。ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

▶ 2023年5月23日、トルコのアタナシマ村で、ジャパン・プラットフォーム支援プロジェクトを通じてピースウィンズ・ジャパンが配布した食料品と生活物資を受け取るために並ぶ住民たち。©PeaceWinds

支援報告

JPFは、加盟団体が実施する緊急支援活動を通じ、食料支援や生活必需品の配布、シェルター確保のほか、水・衛生事業、保健・医療活動、教育など多岐に渡る支援を行っており、その受益者は2023年12月時点で約26万人にのぼります。 ※当連盟の募金の受付は終了しています

募金の寄付先

特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム



未来遺産運動

地域に根ざした伝統文化や自然を次世代に

事業目的 地域の有形・無形の文化や自然を100年後の子どもたちにつなぎ、伝える。

2023年度は「プロジェクト未来遺産2023」を募集し、全国から19件の応募がありました。専門家による書類選考と現地調査を経て、未来遺産委員会による最終選考の結果、4プロジェクトの登録が決定。そのうち長崎県は初の登録となりました。

事業概要

■ 対象	■ 内容
市民が主体となって地域の有形文化、無形文化、自然の保護・継承に取り組む活動	市民による保護・継承活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、各地の登録プロジェクトに対する企業や個人などの協力の輪を広げる。企業との協働事業や、未来遺産ニュースの配信などの広報活動も実施。 特別協力:東日本旅客鉄道株式会社、住友ゴム工業株式会社、ジェットスター

2023年度事業成果

「プロジェクト未来遺産2023」の登録 **4** 件

「プロジェクト未来遺産2023」登録決定

巨大防浪堤を未来へ
～岩手県宮古市田老の津波防災伝承活動～



特定非営利活動法人津波太郎 岩手県宮古市

昭和の三陸津波をきっかけに築堤した防浪堤をシンボルとし、津波被害の実態や記憶の伝承、防災教育を行う活動。

歩こう子どもたち!
～未来につながる「備中と道」～



備中と道トレイル推進協議会 岡山県笠岡市、矢掛町、井原市、高梁市

かつて魚仲仕(うおなかせ)が新鮮な魚を運んだ「備中と道」の復元と保全、沿道の歴史文化を継承する活動。

伝統芸能石見神楽を未来に
継承サポートプロジェクト



どんちっちサポートIWAMI 島根県浜田市

市内の各子ども神楽団体の相互連携を通じて、子どもたちの伝承意欲の向上をはかり、石見神楽の継承を目指す活動。

五島に残る玉之浦神楽
～子どもたちへの伝承プロジェクト～



白鳥神社神楽保存会 長崎県五島市

例大祭の場に限定せず、常設演舞場を設け、演舞会や子ども神楽教室を通じて玉之浦神楽を継承する活動。

累計成果 2009～2023年度

「プロジェクト未来遺産」の登録 **83** 件(41都道府県)

「プロジェクト未来遺産」一覧 ブロック別・登録順

2009～2023年度
累計
83
プロジェクト

北海道(5)

- 野生サケのふるさとウロ川保全調査・普及プロジェクト(北海道白老郡白老町)
- ★未来人(みらいびと)への贈り物★宗谷防人物語(そやさきもりものがたり)(北海道稚内市)
- 知床のヒグマとともに生きていくために、全国の教室に本物を届けよう!
ヒグマ授業サポートプロジェクト(北海道斜里郡斜里町)
- 絶滅危惧種イトウ(サケ科)北海道尻別川個体群の復元活動(北海道虻田郡ニセコ町)
- 昭和山新ジオツアー減災文化継承プログラム(北海道有珠郡壮瞥町)

東北(10)

- 久保川イーハトーブ世界自然再生事業(岩手県一関市)
- 稲生川(いなおいがわ)開削と三本木原(さんぼんぎはら)開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に(青森県十和田市)
- 「月浜のえんずのわり」を未来につなげよう(宮城県東松島市)
- 新津丘陵の自然・森林・歴史遺産の保全・整備プロジェクト(新潟県新潟市)
- 町屋再生プロジェクト 市民基金設立による町屋の外観再生事業(新潟県上市)
- おらほのながめづくり『遠野物語』の文化的景観を守る(岩手県遠野市)
- 気仙沼港と風待ちの風景 ～歴史的建造物の復興プロジェクト～(宮城県気仙沼市)
- 古町花街における伝統文化と歴史的景観の保全・継承活動(新潟県新潟市)
- 秋田の聖農・石川理紀之助の教えの継承と「草木谷」の環境保全活動(秋田県湯上市)
- 巨大防浪堤を未来へ～岩手県宮古市田老の津波防災伝承活動～(岩手県宮古市)

関東(12)

- 神楽坂をまます料に～「粋益(いきまじ)」プロジェクト(東京都新宿区)
- 水と林と田んぼのハーモニー 里山がくれた生き物と歴史の玉手箱 穴塚の自然と文化を次世代に(茨城県土浦市)
- 「谷中のたから」体験・発見・交流プロジェクト
江戸～東京のまちと自然、建物、生活文化の保全活用・体験事業～(東京都台東区)
- 渡良瀬川源流の森再生プロジェクト～足尾銅山の荒廃地に植樹～(栃木県日光市)
- 水戸の歴史資産「借楽園と弘道館」の魅力を子どもたちに伝える活動(茨城県水戸市)
- 佐野天明(命)鎗物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動(栃玉県佐野市)
- 世界で一つだけの「元荒川サントミヨ生息地」保護活動(埼玉県熊谷市)
- 首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子どもに残す(埼玉県さいたま市)
- 「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくり(東京都豊島区)
- 玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト(東京都小平市)
- 須原人形芝居継承者プロジェクト～江戸時代の技を今につなぐ～(群馬県沼田市)
- こんぶくろ池自然博物館～市民で育てる百年の森プロジェクト～(千葉県柏市)

中部東(5)

- 木曾丸ごと夢作り活動(長野県木曾郡)
- 生態系豊かな森の再生と豊かな森が持つ可能性の追求(長野県上水内郡信濃町)
- ドブ川化した川を市民力を結集して虫が乱舞する清流に再生・復活(静岡県三島市)
- 火の見櫓からまちづくり～地域を見守る安全遺産を未来へつなぐ～(静岡県富士市)
- 源流大学～知識だけでなく、生きた知恵を次世代へ～(山梨県北都留郡小菅村)

中部西(10)

- いきもの不思議の国・中池見湿地(福井県敦賀市)
- 赤瓦と煙出しの里 加賀ひがしたにの未来プロジェクト(石川県加賀市)
- 現代の癒し「布橋灌頂会(ぬのばしかんじょうえ)」を永遠に語り継ぐために!
(富山県中新川郡立山町)
- 伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業(三重県名張市)
- 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ(福井県越前市)
- みんなの手で守り、未来に伝える!日本の原風景『丸山千枚田』(三重県熊野市)
- 愛知万博の理念と成果の継承
～海上(かいしよ)の森・保全活用プロジェクト～(愛知県瀬戸市)
- 福野夜高祭～「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト～(富山県南砺市)
- 美濃流し仁輪加～地方に華咲く言葉の文化～(岐阜県美濃市)
- 若狭町の歴史遺産の縄文文化を全国へ(福井県三方上中郡若狭町)

企業との連携

地域と企業がともに地域の遺産を守る

全国各地にある「プロジェクト未来遺産」の地域で、企業の社員が田植えや間伐などの環境保全活動や、ビオトープ整備などの生物多様性保全活動、伝統的町並みの保全活動などを実施するなど協力の輪が広がっています。企業との連携を通じて「プロジェクト未来遺産」の活動の広がりと継承を目指しています。



近畿(9)

- 葵プロジェクト(京都府京都市)
- ならまち わらべうたフェスタ(奈良県奈良市)
- 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト(和歌山県海南市)
- 天神崎(てんじんざき)の自然の維持と環境教育の推進(和歌山県田辺市)
- ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法「ドビ流し」の継承(大阪府八尾市)
- いやしの里深野を目指して、希少になったササユリ保護・増殖活動(奈良県宇陀市)
- 銀の馬車道プロジェクト～日本初の高速度産業道路を未来につなぐ～(兵庫県姫路市)
- 湖国の原風景 権座(ごんざ)水郷を守り育てる活動(日本の里百選)選定地域(滋賀県近江八幡市)
- 京都桂川の生物多様性保全一カヤネズミのすむ茅原を未来へつなぐ(京都府京都市)

四国(5)

- みんなでかぶこう!!プロジェクト～農村歌舞伎紙園座(香川県高松市)
- 世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト(徳島県徳島市)
- 次世代につなごう!!「千年サング」保全プロジェクト(徳島県海部郡牟岐町)
- 美の里を未来へ 石畳地区・村並み保存活動(愛媛県喜多郡内子町)
- 未来へつなぐ子ども達の健康と健やかな成長～田井の子供相撲～(香川県高松市)

中国(13)

- 日本の記憶が息づく島OKIを守り伝えるプロジェクト
(島根県隠岐郡隠岐の島町)
- このままの鞆(とも)がいい!住民の手による歴史的港湾都市「鞆の浦」の歴史・文化・自然の継承と再生(広島県福山市)
- 未来につなごう!尾道・坂の町再生プロジェクト(広島県尾道市)
- 笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動(山口県防府市)
- 英田(あいだ)上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田8300枚～(岡山県美作市)
- まちにあかりを灯すプロジェクト(岡山県倉敷市)
- 榎野川(ふしのがわ)もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト(山口県山口市)
- 萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト(山口県萩市)
- 被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」(広島県広島市)
- 山口鷺流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鷺流狂言～(山口県山口市)
- 三石灯りの街～子どもたちと伝える耐火煉瓦で栄えたまちの記憶～(岡山県備前市)
- 伝統芸能石見神楽を未来に継承サポートプロジェクト(島根県浜田市)
- 歩こう子どもたち!～未来につながる「備中と道」～(岡山県備前中エリア)

九州(14)

- 八女(やめ)福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承(福岡県八女市)
- 現代版組踊「肝心の阿麻和利(あまわり)」と「キムタカのまちづくり」(沖縄県うるま市)
- 阿蘇千年の草原を未来へ引き継ごう(熊本県阿蘇市)
- 未来に遺す「生きた鉄道博物館～100年レイル肥薩線への情熱～」(熊本県人吉市)
- 千年の時を刻む荘園村落遺跡「田染荘(たしぶのしょう)小崎」(大分県豊後高田市)
- 生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟保全活動(大分県中津市)
- 鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会(ながいわやしゅじょうおにえ)(大分県豊後高田市)
- 博多湾・和白(わじろ)干潟の自然保護活動(福岡県福岡市)
- 肥前浜宿の歴史的まちなみの保存と醸造文化の継承(佐賀県鹿島市)
- 子供と命をつなぐジッキョヌホーのトウギョの里プロジェクト(鹿児島県大島郡知名町)
- 「くも合戦」保存プロジェクト(鹿児島県始良市)
- 創作組踊「糸蒲の縁(いとかまのえん)」で地域の子ども達を育み新たな文化を繋ぐ(沖縄県中頭郡中城村)
- 大東太鼓～北大東島の子どもたちが伝える開拓の文化～(沖縄県島尻郡北大東村)
- 五島に残る玉之浦神楽～子どもたちへの伝承プロジェクト～(長崎県五島市)

世界遺産活動

人類共通のたからものを未来の世代へ引き継ぐ

事業目的 人材育成や修復、世界遺産教育を通じて、途上国の世界遺産の保護・保全を行う。

カンボジア



世界遺産名 アンコール プロジェクト名 アンコール教育教材開発プロジェクト

事業概要

■ 対象 カンボジアの世界遺産「アンコール」遺跡群の近隣10の寺子屋に通う子どもたち、公立の小学校に通う子どもたち、寺子屋および公立小学校の教員
■ 内容 世界遺産教育教材(塗り絵教材)の開発、教員研修、アンコール遺跡群の寺院や壁画についての授業、遺跡を巡る訪問学習。

2023年度事業成果

世界遺産訪問学習の参加者 **10**の寺子屋 **13**クラスの子ども **268**名・教員 **25**名
(座学を含めた学習者全体の数は、寺子屋の子ども300名、公立小学校の子ども500名)

塗り絵教材配布数 **878**冊 教員研修会の参加者数 **26**名 (寺子屋の教員15名、公立小学校の教員11名)

地元の世界遺産、アンコール遺跡を学ぶ

寺子屋や公立小学校の子どもたち800名以上がアンコール遺跡について学びました。本プロジェクトへの参加がきっかけとなり、APSARA(アンコール遺跡整備機構)の支援のもと、プノンペンで考古学を学ぶ学生を輩出しています。2009年から開始した本プロジェクトは、着実に次世代の育成に寄与しています。



塗り絵を通じて遺跡について学ぶ子どもたち

インドネシア



世界遺産名 ボロブドゥール寺院遺跡群 プロジェクト名 世界遺産ボロブドゥール地域に根差したSDGsの実現

事業概要

■ 対象 インドネシアの大学生、ボロブドゥール地域周辺に暮らす人びと、ボロブドゥール地域のジャワの伝統的な建築様式を持つ家屋
■ 内容 2023年度よりUNESCOジャカルタ事務所と協力して、本事業を開始しました。本事業では、伝統的な家屋の保全に関するガイドラインの作成を通じた遺跡周辺の文化的景観の保全と、そこに暮らす住民の課題解決に取り組む大学生向けの研修の2つのプログラムを実施します。
カウンターパート: UNESCOジャカルタ事務所

2023年度事業成果

大学生向けオンラインワークショップ(2回)参加者数 計約 **200**名

インドネシア世界遺産の日イベント参加者数 約 **120**名

大学生向けにオンラインワークショップを開催

2つのプログラムのうち、インドネシアの大学生向けプログラムを実施しました。世界遺産の課題解決に取り組むため、オンラインワークショップを2回開催し、ボロブドゥール寺院の専門家による講義やバーチャルツアー、世界遺産クイズなどを行いました。



ボロブドゥール寺院遺跡群全景 © Balai Konservasi Borobudur

2000年以降に支援した主な世界遺産 アンコール・バイヨン寺院彫像(カンボジア) / バガン遺跡(ミャンマー) / フィリピン・コルディエーラの棚田群(フィリピン) / 古都ホイアン(ベトナム) / パーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群(アフガニスタン) / カトマンズの谷(ネパール) / 仏陀の生誕地ルンビニ(ネパール)

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

子どもたちの絵日記を通じた国際理解教育

事業目的 絵日記を通じてアジアの子どもたちがお互いの文化を知り、尊重しあう心を育む。

事業概要

■ 対象 アジアの24の国と地域の子ども(6~12歳)
■ 内容 1990年に国連が制定した「国際識字年」の「全ての人びとが読み書きできる世界を」という趣旨に賛同し、アジアの子どもたちが絵日記を描いたり読んだりすることが識字教育に結びつくことを期待して開始。2年に一度実施し、次は2024年度の開催となる。
共催: 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)

作品の展示会や出前授業などを実施

2023年度は、2024年6月からスタートする第16期(2024-2025)の絵日記募集に向けたPR活動を展開。札幌や神戸で絵日記作品の展示会を開催したほか、アジアの絵日記作品を通じてSDGsや多様な文化を学ぶ出前授業などを小学校で実施しました。



東京都葛飾区立金町東小学校で絵日記パネル展を開催

2024年度の応募作品から選ばれた各国のグランプリ受賞者は、2025年夏に大阪・関西万博の会場で行われる国際表彰式に招待されます。

絵日記の募集については
こちら ▶▶▶



高校生カンボジアスタディツアー

私も、あなたも、「世界の中の一人」を実感

事業目的 教育・国際協力の視点からカンボジアが抱える課題を学び、国際理解を深めるとともに、自分たちができることを考える。

事業概要

■ 対象 ユネスコスクール(キャンディデート校含む)または「世界寺子屋運動」関連事業参加実績がある高校(2021年度から)
■ 内容 高校生がカンボジアを訪れ、寺子屋の授業見学や世界遺産見学、現地の人との交流や寺子屋学習者の家庭訪問を実施。2020年度以降は、コロナ禍により内容を一部変更しオンラインで実施。
共催: 公益財団法人かめのり財団

2023年度事業成果

参加校 **3**校 参加者 **18**人

累計成果 2014~2023年度

参加者 **396**人 内、338人はオンラインツアーへの参加

カンボジアとのオンライン交流を通じた学び

オンラインでカンボジアの寺子屋を中継し、生徒の自宅訪問、先生や生徒と絵を用いた交流を行いました。日本の高校生たちは、「写真では見たことがあるが、実際に話すと印象が違った」などと話しました。ツアー終了後は、報告会や書きそんじハガキの回収を行い、学んだことを学校や社会に還元しました。



「お気に入りの時間」を描いた絵を発表するカンボジアの参加者たち

当日のダイジェスト映像



団体概要

名称 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

代表者 佐藤美樹

創立 1948年5月1日

所在地 東京都渋谷区恵比寿 1-3-1朝日生命恵比寿ビル12階

日本ユネスコ協会連盟とは

UNESCO(国際連合教育科学文化機関)は、第2次世界大戦の反省から、「二度と戦争を繰り返さない」という決意のもと、1946年11月、国連の専門機関として誕生しました。そして、その翌年、UNESCO憲章の理念に感銘を受け、日本のUNESCO加盟を目指した人びとによって、民間ユネスコ運動が生まれました。この運動は官民一体の取り組みとして全国に広がり、1951年に日本はUNESCO加盟を果たしました。日本ユネスコ協会連盟は、全国に約270あるユネスコ協会・クラブとともに、今日もUNESCO憲章の理念に基づいて、国内外で活動を行っています。

UNESCO憲章と3つのユネスコ

UNESCO憲章は、政府間での平和構築の努力とともに、世界中の人びとの知的・精神的連帯の上に、永続的な平和が築かれる、と謳っています。UNESCOは他の国際機関にはない市民レベルの活動を生み出し、国連、政府、そして民間が三位一体となって活動することで、平和な世界を実現することを目指しています。



戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

政府の政治的及び経済的取極のみに
基く平和は、世界の諸人民の、一致した、
しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。
よって平和は、失われたいためには、
人類の知的及び精神的連帯の上に
築かなければならない。

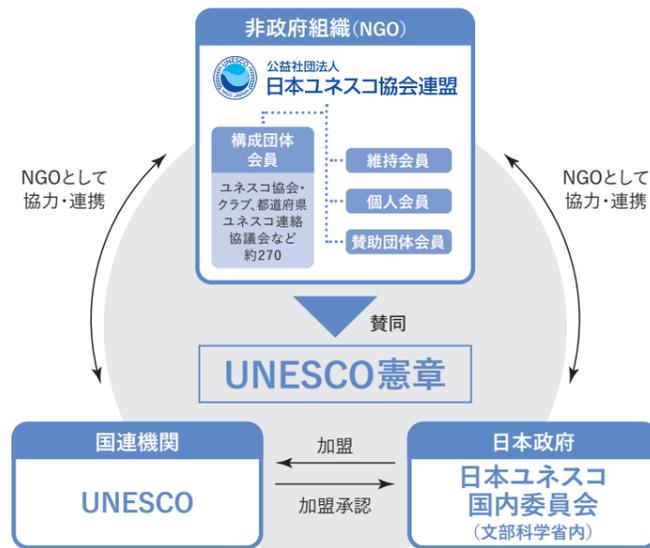
世界に広がる 民間ユネスコ運動の ネットワーク

アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)は、1974年に創設されました。当連盟と「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」(p20参照)を共催するなど、アジア地域での民間ユネスコ運動に重要な役割を担っています。また、1981年に設立された世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟(WFUCA)には89ヶ国が加盟し、世界で4921のユネスコ協会やクラブが活動しています。

UNESCOと日本ユネスコ協会連盟 創設のあゆみ

- 1945年11月16日 UNESCO憲章採択
- 1946年11月4日 UNESCO創設
- 1947年7月19日 仙台ユネスコ協力会(当時)発足
- 1947年11月27日 第1回ユネスコ運動全国大会開催
- 1948年5月1日 日本ユネスコ協力会連盟(当時)結成
- 1951年7月2日 日本のUNESCO加盟
- 1951年8月14日 日本ユネスコ協会連盟に改組
- 1956年12月18日 日本の国際連合加盟

(太字は民間ユネスコ運動の動きです)



独立採算で運営している公益社団法人です

- 日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO、日本政府からは独立した公益法人格を持つ組織です。
- 個人や団体の皆さまからいただく寄付を主な財源としています。
- 税額控除が受けられます。

全国ユネスコ協会・クラブ一覧

272団体 / 2024年6月1日現在

北海道ブロック(20)

- 北海道ユネスコ連絡協議会
- 旭川ユネスコ協会
- 岩内ユネスコ協会
- 小樽ユネスコ協会
- 帯広ユネスコ協会
- 釧路ユネスコ協会
- 札幌ユネスコ協会
- 千歳ユネスコ協会
- 函館ユネスコ協会
- 室蘭ユネスコ協会
- 石狩ユネスコ協会
- 江別ユネスコ協会
- 名寄ユネスコ協会
- 苫小牧ユネスコ協会
- 倶知安ユネスコ協会
- 恵庭ユネスコ協会
- 知床ユネスコ協会
- 稚内ユネスコ協会
- 北広島ユネスコ協会
- 江差ユネスコ協会

東北ブロック(45)

- (一社)青森県ユネスコ協会
- 岩手県ユネスコ連絡協議会
- 釜石ユネスコ協会
- 北上ユネスコ協会
- 花巻ユネスコ協会
- 前沢ユネスコ協会
- 水沢ユネスコ協会
- 盛岡ユネスコ協会
- 陸前高田ユネスコ協会
- 久慈ユネスコ協会
- 東山ユネスコ協会
- 川崎ユネスコ協会
- 宮古ユネスコ協会
- 江刺ユネスコ協会
- 二戸市ユネスコ協会
- 平泉ユネスコ協会
- 一関ユネスコ協会
- 遠野ユネスコ協会
- 千厩ユネスコ協会
- 大船渡ユネスコ協会
- 浄法寺ユネスコ協会
- 滝沢ユネスコ協会
- 衣川ユネスコ協会
- 一戸ユネスコ協会
- 宮城県ユネスコ連絡協議会
- 気仙沼ユネスコ協会
- 白石ユネスコ協会
- (公社)仙台ユネスコ協会
- 塩釜ユネスコ協会
- 富谷ユネスコ協会
- みやぎ北ユネスコ協会
- 秋田県ユネスコ連絡協議会
- 秋田ユネスコ協会
- 横手ユネスコ協会
- 酒田ユネスコ協会
- 福島県ユネスコ連絡協議会
- 須賀川地方ユネスコ協会
- 福島ユネスコ協会
- 会津ユネスコ協会
- いわきユネスコ協会
- 白河ユネスコ協会
- 郡山ユネスコ協会
- 郡山次世代ユネスコ協会
- (一社)新潟市ユネスコ協会
- 佐渡ユネスコ協会

関東ブロック(70)

- 茨城県ユネスコ連絡協議会
- 土浦ユネスコ協会

- ひたちなかユネスコ協会
- 北茨城ユネスコ協会
- 水戸ユネスコ協会
- 茨城県西地方ユネスコ協会
- 栃木県ユネスコ連絡協議会
- 足利ユネスコ協会
- 佐野ユネスコ協会
- 日光ユネスコ協会
- 開倫ユネスコ協会
- 群馬県ユネスコ連絡協議会
- 太田ユネスコ協会
- 桐生ユネスコ協会
- 沼田ユネスコ協会
- 大泉ユネスコ協会
- 安中碓氷ユネスコ協会
- 伊勢崎ユネスコ協会
- 高崎ユネスコ協会
- 富岡ユネスコ協会
- 藤岡地方ユネスコ協会
- 館林ユネスコ協会
- 埼玉県ユネスコ連絡協議会
- 寄居地方ユネスコ協会
- (特非)さいたまユネスコ協会
- 深谷地方ユネスコ協会
- 越谷ユネスコ協会
- 蓮田・白岡地方ユネスコ協会
- 秩父ユネスコ協会
- 千葉県ユネスコ連絡協議会
- 柏ユネスコ協会
- 木更津ユネスコ協会
- 千葉ユネスコ協会
- 成田ユネスコ協会
- 富里ユネスコ協会
- (特非)市川市ユネスコ協会
- 浦安市ユネスコ協会
- 四街道市ユネスコ協会
- 船橋ユネスコ協会
- 八街ユネスコ協会
- 香取・佐原ユネスコ協会
- 八千代ユネスコ協会
- 東京都ユネスコ連絡協議会
- 朝日生命ユネスコクラブ
- (特非)目黒ユネスコ協会
- ふるさと東京ユネスコ協会
- 小平ユネスコ協会
- まちだ・さがみユネスコ協会
- 港ユネスコ協会
- 渋谷ユネスコ協会
- 大田ユネスコ協会
- ユネスコ・アルムニ・クラブ
- 杉並ユネスコ協会
- (特非)としまユネスコ協会
- スプリングユネスコクラブ
- 武蔵野ユネスコ協会
- 玉川大学ユネスコクラブ
- (特非)維新隊ユネスコクラブ
- 学び舎江戸東京ユネスコクラブ
- (一社)新宿ユネスコ協会
- (特非)舞音の守ユネスコクラブ
- スポーツと平和を考えるユネスコクラブ
- ミンガラパー・ユネスコクラブ
- ICUユネスコクラブ
- 立川ユネスコ協会
- 立教セカンドステージ大学ユネスコクラブ
- 中央区ユネスコ協会
- 文京ダイバーシティ・ユネスコ協会
- 全国の青年連絡組織

中部東ブロック(22)

- 神奈川県ユネスコ連絡協議会
- 厚木ユネスコ協会
- 横浜ユネスコ協会

- (特非)鎌倉ユネスコ協会
- 山梨県ユネスコ連絡協議会
- 甲府ユネスコ協会
- 山梨市ユネスコ協会
- 富士川町ユネスコ協会
- 忍野ユネスコ協会
- 富士吉田ユネスコ協会
- 長野県ユネスコ連絡協議会
- 飯田ユネスコ協会
- 松本ユネスコ協会
- (特非)木曾ユネスコ協会
- 諏訪ユネスコ協会
- 静岡県ユネスコ連絡協議会
- 磐田ユネスコ協会
- 清水ユネスコ協会
- 浜松ユネスコ協会
- (特非)静岡ユネスコ協会
- 沼津ユネスコ協会
- 伊豆ユネスコクラブ

中部西ブロック(20)

- 富山県ユネスコ連絡協議会
- 富山ユネスコ協会
- 富山ユネスコ協会青年部
- 氷見ユネスコ協会
- 南砺ユネスコ協会
- 石川県ユネスコ協会
- ふくいユネスコ協会
- 岐阜県ユネスコ協会
- 東広島ユネスコ協会
- 大垣ユネスコ協会
- 各務原ユネスコ協会
- ユネスコクラブ日本ライン
- 名古屋ユネスコ協会
- (特非)市川市ユネスコ協会
- 豊橋ユネスコ協会
- 三重県ユネスコ連絡協議会
- 宇部ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会青年部
- 徳山ユネスコ協会
- 長門ユネスコ協会
- 萩ユネスコ協会
- 光ユネスコ協会
- 山口ユネスコ協会
- 岩国ユネスコ協会
- 防府ユネスコ協会

近畿ブロック(42)

- 長浜ユネスコ協会
- 彦根ユネスコ協会
- 京都府ユネスコ連絡協議会
- ユネスコ京都クラブ
- 舞鶴ユネスコ協会
- 福知山ユネスコ協会
- 京都ユネスコ協会
- 大阪府ユネスコ連絡協議会
- エリーニ・ユネスコ協会
- (特非)大阪ユネスコ協会
- 堺ユネスコ協会
- 箕面ユネスコ協会
- (一社)大阪北河内ユネスコ協会
- 兵庫県ユネスコ連絡協議会
- 芦屋ユネスコ協会
- 尼崎ユネスコ協会
- 神戸ユネスコ協会
- 三田ユネスコ協会
- 宝塚ユネスコ協会
- 西宮ユネスコ協会
- 伊丹ユネスコ協会
- 相生ユネスコ協会
- 川西ユネスコ協会
- 丹波篠山ユネスコ協会
- 姫路ユネスコ協会
- 三木市ユネスコ協会
- 淡路島ユネスコ協会
- 沖繩県ユネスコ連絡協議会
- 奈良ユネスコ協会

- 天理ユネスコ協会
- 斑鳩ユネスコ協会
- 吉野ユネスコ協会
- 飛鳥・橿原ユネスコ協会
- 和歌山県ユネスコ連絡協議会
- 和歌山ユネスコ協会
- 橋本ユネスコ協会
- 紀南ユネスコ協会
- 紀北ユネスコ協会
- 貴志川ユネスコ協会
- 新宮ユネスコ協会
- 岩出ユネスコ協会
- 伊都・高野山ユネスコ協会

中国ブロック(27)

- 鳥取県ユネスコ連絡協議会
- 鳥取ユネスコ協会
- 米子ユネスコ協会
- 倉吉ユネスコ協会
- 出雲地区ユネスコ協会
- 石見地区ユネスコ協会
- 岡山県ユネスコ連絡協議会
- 津山ユネスコ協会
- 岡山ユネスコ協会
- 倉敷ユネスコ協会
- 広島県ユネスコ連絡協議会
- 尾道ユネスコ協会
- 広島ユネスコ協会
- 宮島ユネスコ協会
- 東広島ユネスコ協会
- 因島ユネスコ協会
- 山口県ユネスコ連絡協議会
- 宇部ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会青年部
- 徳山ユネスコ協会
- 長門ユネスコ協会
- 萩ユネスコ協会
- 光ユネスコ協会
- 山口ユネスコ協会
- 岩国ユネスコ協会
- 防府ユネスコ協会

四国ブロック(13)

- 徳島ユネスコ協会
- 香川県ユネスコ連絡協議会
- 高松ユネスコ協会
- 高松ユネスコクラブ
- 丸亀ユネスコ協会
- 愛媛県ユネスコ連絡協議会
- 大洲ユネスコ協会
- 北条ユネスコ協会
- 松山ユネスコ協会
- 今治ユネスコ協会
- 新居浜ユネスコ協会
- 四国中央ユネスコ協会
- 高知ユネスコ協会

九州ブロック(13)

- 久留米ユネスコ協会
- 大牟田地方ユネスコ協会
- 佐賀ユネスコ協会
- 熊本ユネスコ協会
- 大分県ユネスコ協会連盟
- おいた草の根ユネスコ協会
- 日南ユネスコ協会
- 延岡ユネスコ協会
- 都城ユネスコ協会
- 鹿児島ユネスコ協会
- 徳之島ユネスコ協会
- 沖縄県ユネスコ連絡協議会
- 沖縄でいごユネスコ協会

(一社)…一般社団法人、(公社)…公益社団法人、(特非)…特定非営利活動法人

維持会員 / 賛助団体会員

2024年6月1日現在 五十音順 敬称略

維持会員 (138)

株式会社IHI / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 / 旭化成株式会社 / 朝日生命保険相互会社 / 朝日不動産管理株式会社 / 朝日ライフアセットマネジメント株式会社 / 株式会社ADEKA / 株式会社アドバンテスト / 株式会社アルファ / 株式会社ECC / 株式会社インフォテック / 朝日 / 株式会社ウィザス / ANAホールディングス株式会社 / エクシオグループ株式会社 / NPO法人エスピーシーネットワーク / NHSインシュアランスグループ株式会社 / NX商事株式会社 / エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 / エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 / 株式会社NTTデータグループ / 株式会社NTTドコモ / エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 / NTTファイナンス株式会社 / 株式会社NTTファシリティーズ / 株式会社F.L.P. / エフサステクノロジーズ株式会社 / MITホールディングス株式会社 / 株式会社オーシーエス / 株式会社大塚商会 城西営業部 渋谷支店 / 株式会社岡三証券グループ / 沖縄ツーリスト株式会社 / 株式会社オリентコーポレーション / 特定非営利活動法人 音楽は平和を運ぶ / 花王株式会社 / 株式会社カスタムライフ / 関東電化工業株式会社 / 株式会社かんぼ生命保険 / 北日本ビル管理株式会社 / 株式会社紀伊屋書店 / キヤノン株式会社 / 共同印刷株式会社 / 協和キリン株式会社 / 株式会社クラウン・クリエイティブ / 株式会社クラウン・パッケージ / 株式会社クレスコ / 株式会社クレディセゾン / 黒田精工株式会社 / 京王電鉄株式会社 / 株式会社講談社 / 国際セーフティ株式会社 / サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 / 三幸株式会社 / 株式会社シーイーシー / 株式会社四国銀行 / 株式会社資生堂 / 清水建設株式会社 / 学校法人尚志学園 / 城北化学工業株式会社 / 株式会社白橋 / 新光電気工業株式会社 / 株式会社 SBI 新生銀行 / 新菱冷熱工業株式会社 / 西武信用金庫 / 清和総合建物株式会社 / 株式会社セーフティ / 株式会社セブン&アイ・ホールディングス / 全国税理士共栄会 / 税理士法人添石総合会計事務所 / 株式会社タイキ / 大和証券株式会社 / 中央日本土地建物株式会社 / 中部日本放送株式会社 / 株式会社千代田組 / 株式会社TBSホールディングス / 帝人株式会社 / 株式会社ディッジ / 株式会社電通 / 東急建設株式会社 / 東急不動産ホールディングス株式会社 / 東京海上日動火災保険株式会社 / 東京書籍株式会社 / 株式会社東京ドーム / 東武鉄道株式会社 / 東洋埠頭株式会社 / 株式会社東横イン / TOPPANエッジ株式会社 / なないろ生命保険株式会社 / 西日本電信電話株式会社 / 株式会社日税ビジネスサービス / ニチモウ株式会社 / NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 / 日本化薬株式会社 / 日本軽金属株式会社 / 日本ゼオン株式会社 / 日本電信電話株式会社 / 日本ビストリング株式会社 / 日本放送協会 / 日本空港ビルデング株式会社 / 日本農業株式会社 / 日本メディカルシステム株式会社 / 野村ホールディングス株式会社 / 株式会社パウコムコミュニケーションズ / 株式会社バンザイ / 東日本電信電話株式会社 / 東日本旅客鉄道株式会社 / 株式会社日立製作所 / 株式会社ビデオプロモーション / 日比谷総合設備株式会社 / 株式会社フェドラ / 富士オフィス&ライフサービス株式会社 / 富士急行株式会社 / 富士通株式会社 / 株式会社富士通ゼネラル / 株式会社フジ・メディア・ホールディングス / 古河機械金属株式会社 / 古河電気工業株式会社 / 株式会社ブロードリンク / 株式会社プロジェクトパーク / マイスター会計事務所 / 株式会社増田屋コーポレーション / 株式会社みずほフィナンシャルグループ / 三井住友カード株式会社 / ミツイワ株式会社 / 三菱地所株式会社 / 三菱重工業株式会社 / 三菱商事株式会社 / 株式会社ミライト・ワン / 株式会社ミロク情報サービス / 株式会社ムクダ / メッドサポートシステムズ株式会社 / モリリン株式会社 / 株式会社ヤクルト本社 / 山崎製パン株式会社 / 横浜ゴム株式会社 / レイ法律事務所 / 匿名3社

賛助団体会員 (16)

ICOM日本委員会 / OMEP日本委員会 / NPO法人関西国際交流団体協議会 / 一般社団法人国立大学協会 / 特定非営利活動法人としまNPO推進協議会 / 公益社団法人日本空手協会 / 協同組合日本脚本家連盟 / 一般社団法人日本国際児童図書評議会 / NPO法人日本国際文化遺産協会 / 一般社団法人日本コミュニティ放送協会 / 公益社団法人日本図書館協会 / 一般社団法人日本の節句文化を継承する会 / 公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 / 一般社団法人日本美術家連盟 / 公益財団法人野村生涯学習教育センター / WARD世界子孫代理人会

サポーター

UNESCO憲章の理念に賛同し、何年にもわたって民間ユネスコ運動を支えてくださっている方々をご紹介します。



ユネスコ世界寺子屋運動
広報特使
久保 純子さん



ヴァイオリニスト
UNESCO平和芸術家
二村 英仁さん

企業・団体との連携

2023年度も多くの企業・団体にご協力いただきました。

					※企業・団体名の五十音順	

企業・団体による寄付のご相談はこちらまでご連絡ください ▶ 企業寄付係 kikaku@unesco.or.jp

寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟の活動は、皆さまからのご寄付で実現しています。
 私たちの活動の基本姿勢はコーアクション(Co-Action=ともに行動する)です。
 とともに社会課題を解決し、平和な世界を築くパートナーとして、皆さまのご協力をお願いします。

寄付で実現すること ※世界寺子屋運動(カンボジア)の場合

<p>5000円のご寄付で</p> <p>寺子屋で学ぶ子どもたちの給食</p> <p>17 食分</p> 	<p>10000円のご寄付で</p> <p>寺子屋で学ぶ子どもたちの制服</p> <p>10 人分</p> 	<p>15000円のご寄付で</p> <p>寺子屋で識字教育を1年間受け、読み書きができるようになる</p> <p>1 人分</p> 
--	---	--

寺子屋に設置される銘板にお名前を記載できます

世界寺子屋運動の支援地であるカンボジアまたはネパールをご指定いただいた個人の方で、1回のご寄付が10万円以上の場合、ご希望の方には、新たに建設される寺子屋に設置する銘板にお名前を記載させていただきます。写真はカンボジアの寺子屋に設置された銘板です。詳しくはお問い合わせください。
 (nfuj_inc@unesco.or.jp 海外事業部)
 *寺子屋建設は毎年実施されるとは限りませんので、時期などをご指定いただくことはできません。



寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、**税制優遇措置**の対象です。

日本ユネスコ協会連盟への寄付金は、所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置があります。
 なお、一部の自治体(東京都)では、個人住民税の寄付金税額控除の対象となります。

<p>月1いいことプログラム(毎月寄付)</p> <p>口座振替またはクレジットカードにより、毎月決まった金額を寄付いただくプログラムです。金額は1000円からご自身で設定いただけます。</p>	<p>都度のご寄付</p> <p>郵便振替・銀行振込・クレジットカードにより、ご自身のタイミングで寄付いただく方法です。巻末の振込用紙もご活用ください。</p>	<p>遺贈</p> <p>遺言によりご自身の財産を贈与(寄付)いただく方法です。不動産の遺贈や相続財産の寄付などのご相談もお受けしています。ご希望の方には、手続き方法などを掲載したパンフレットをお送りします。</p>
<p>書きそんじハガキなどのタンス遺産</p> <p>書きそんじたハガキ、未使用の切手、プリペイドカードなどの「タンス遺産」をお送りください。途上国における教育支援「世界寺子屋運動」の活動資金として活用させていただきます。</p> <p>送付先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1-12F 日本ユネスコ協会連盟 書きそんじ係</p>	<p>ポイント寄付</p> <p>クレジットカードや各種ポイントサービスのポイントを寄付いただく方法です。15社以上のポイントサービスと提携しています。</p>	

その他

Yahoo!ネット募金

クレジットカードでの寄付や、Vポイントを使って



メルカリ寄付

メルカリ寄付サイトからメルペイ残高で寄付が可能です。寄付先に日本ユネスコ協会連盟をご指定ください。



寄付方法について詳しくはホームページをご覧ください。



<https://www.unesco.or.jp/join/support/>

会計報告

2023年度 正味財産増減計算書(要約版)

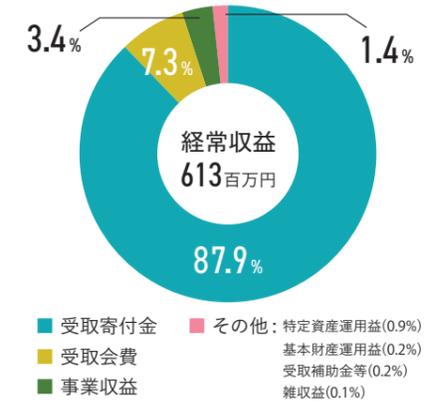
2023年4月1日から2024年3月31日まで

科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	1,470
特定資産運用益	5,595
受取会費	44,615
事業収益	20,742
受取補助金等	1,366
受取寄付金	538,622
雑収益	515
経常収益計	612,925
(2) 経常費用	
事業費	570,512
管理費	50,892
経常費用計	621,404
評価損益等調整前当期経常増減額	△8,479
評価損益等計	27,126
当期経常増減額	18,648
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	18,648
一般正味財産期首残高	828,427
一般正味財産期末残高	847,075
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	649,904
特定資産評価益	0
特定資産評価損	245
一般正味財産への振替額	△504,819
当期指定正味財産増減額	144,840
指定正味財産期首残高	1,386,314
指定正味財産期末残高	1,531,154
III 正味財産期末残高	
	2,378,228

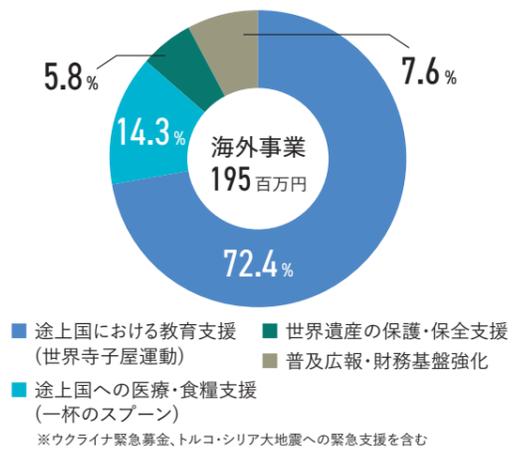
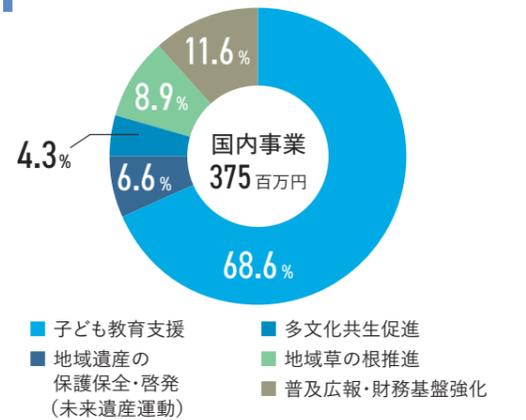
注:記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

監事による監査に加え、監査法人MMPGエーマック並びに要石公認会計士事務所より監査を受けております。計算書類等、詳しくは当協会連盟のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。

2023年度 経常利益の内訳



2023年度 経常費用のうち 事業費の内訳



詳しくはこちら
<https://www.unesco.or.jp/document/>



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階

TEL: 03-5424-1121 Email: nfuaj_web@unesco.or.jp <https://www.unesco.or.jp>